

使用するためには…

4 散布がすんだら、それでいいの？ 注意することってあるの？

散布した後は

- ・手、顔などを石けんでよく洗いましょう。
- ・散布器具を洗浄。また、衣服の洗濯もお忘れなく。
- ・散布液が残った場合、河川などには絶対捨てないでください。
- ・当日は散布区域内に子供やペットを立ち入らせないようにしてください。

→ 6 散布後の注意



5 農薬が余ったんだけど、どこにしまって置けばいいのかしら？



使用後の農薬の保管は

- ・子供の手の届かない所に。
- ・飲食物、食器類、ペットの餌と区別する。
- ・他の容器に移し替えない。
- ・密栓して、直射日光を避け、冷涼な場所に火気を避けて。

6 いよいよ収穫！ このトマト、とってもおいしそう。

太陽、雨、空気、微生物など自然の作用で、農薬は作物についても、どんどんなくなっていきます。

上手に使って、楽しい食卓

・希釈倍数、使用時期・回数などラベルどおりに使用した作物は安心して食べられます。農薬を使用する前にラベルをよく読みましょう。→ 8 農薬の安全性



9 主な病害虫と雑草

害虫



病害



雑草



禁断転用

- 住友化学株式会社
- 住化武田農薬株式会社
- 住化タケダ園芸株式会社
- レインボー薬品株式会社
- 株式会社日本クリーンアンドガーデン
- 日本エコアプロ株式会社

なるほどね！これでナットク 農薬の選び方・使い方



大切に育てている野菜や花が、虫に食べられたり、病気でしおれてしまったら…悲しいですね。そこで一つの有効な方法として薬剤による防除があります。では、どのように選んで、使えばよいのでしょうか。農薬を正しく、安全に役立てるためのポイントは、ここ！

農薬を正しく、安全に

1 葉っぱが虫に食べられちゃった。どうすればいいの？

農薬を使う前に

- ・害虫や病気、雑草をよく観察しましょう。
- 9 主な病害虫と雑草
- ・病気や、害虫の名が分かったら
- 1 農薬を上手に選ぶポイント



2 トマトを育ててるんだけど、この農薬は使えるのかしら？

農薬を選ぶ時は

作物名	適用害虫名	希釈倍 (倍)
トマト	アブラムシ類 ニジュウヤホシテントウ	2000
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000
きゅうり	アブラムシ類 アザミウマ類	2000 100



- ・農薬にはいろいろな種類の薬剤 (剤型) があります。→ 2 剤型の解説
- ・ラベルの記載を必ず確認しましょう。
- 3 ラベルの見方
- ・使用できる作物/使用方法 (使用濃度・量と回数) / 使用できる回数 (散布してから収穫できるまでの日数) など。

3 さあ、散布！ どんなことに気をつけたらいいの？

マスク、メガネ、手袋、帽子を忘れずに。葉の裏や枝にもよくかかるように散布しましょう。

散布する時は

- ・風向きや周囲 (子供・通行人) に注意して。
- ・朝夕の涼しい時に。
- ・必要な器具・保護具を準備して。
- 6 散布器具は用途別に準備
- ・ムラなく、ていねいに、葉の裏にも。
- ・雨が降りそうな場合は散布を避ける。

散布液を作る時は

- ・散布液は余らない量を調整しましょう。→ 4 散布液の作り方
- ・希釈倍率や散布量を守りましょう。→ 7 単位



1 農薬を上手に選ぶポイント

防除目的をはっきり! (虫なのか? 病気なのか?)

- どんな症状がでているのか。
- 虫の姿が見える。

どんな農薬があるのか! (害虫に殺虫剤、病気なら殺菌剤、雑草には除草剤があります)

- 使用場所、規模等の条件に合った剤型を選択しましょう。
- 1) 主な剤型は、乳剤、水和剤、粒剤があります。
- 2) 乳剤-水和剤は水で薄めて散布器で散布し、粒剤はそのまま散布します。

薬剤を正しく選択! (薬剤が使用作物に適用のあることを確認しましょう)

- どんな作物、および病害虫・雑草名なのか確認しましょう。
- 対象病害虫・雑草に効果があるのか確認しましょう。
- 面積に応じた農薬(剤型・規格)を選びましょう
- <病害虫の発生状況を確認して早めに散布しましょう>

●農薬とは
農作物、花・観葉植物、樹木、芝を害虫や病気、雑草から守る目的で使用される薬剤です。(ハエ、蚊、ゴキブリの駆除のために家庭などで使用される薬剤は農薬ではありません)



2 剤型の解説

- 水に希釈して使用する薬剤(農家向けが多い)
- 乳剤** : 液状の製剤で、水で薄めて使用します。水で薄めると乳白色の液体になります。
- 水和剤** : 粉末状の製剤で、水で薄めて使用します。水で薄めるとわずかに濁った液体になります。
- フロアブル剤** : 水和剤の一種で、水に白濁させた濃い製剤です。水で薄めて使用します。保管中に有効成分が沈殿しやすいので、よく振ってから使用してください。

●そのまま手軽に使用できる薬剤(一般家庭園芸向けに多い)

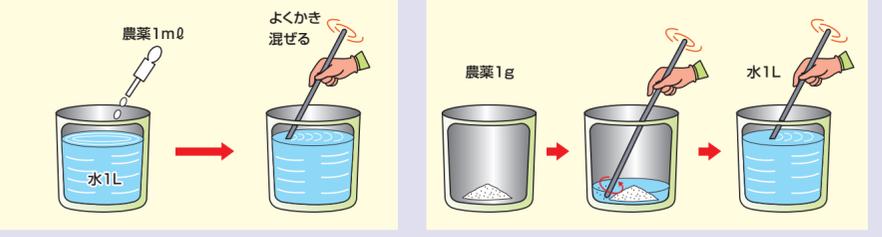
- エアゾール剤** : 手を汚さず手軽に使用できます。作物に近づけて散布すると冷害を起すため、必ず一定の距離(30cm以上)を離して使用します。
- スプレー(AL)剤** : 薄める手間がなく、そのまま使用できます。作物に近づけて散布しても冷害ができません。部分的なポイント散布ができます。
- 粒剤** : そのままバラバラと散布できます。長期間効果が持続する商品が多いです。
- ペレット剤** : ナメクジ、ネキリムシなど昼間かくれて夜に活動する害虫に有効です。植物を加害する前に害虫を誘引して退治できます。

4 散布液の作り方

薬剤(乳剤、水和剤) 1gの計量

乳剤の場合:キャップに約0mℓと表示されているので参考にしてください。
水和剤の場合:計量スプーンで計ります。1円玉が1gなので参考にしてください。

- 乳剤の1000倍液の作り方**
1) バケツに水1000mℓ(1L)入れる。
2) 農薬1mℓ入れて攪拌棒でよくかき混ぜる。
- 水和剤の1000倍液の作り方**
1) 農薬1gをバケツに入れる
少量の水を加え練るようにかき混ぜる。
2) バケツに1000mℓ(水1L)入れ攪拌棒でよくかき混ぜる。



希釈表

希釈倍数	薬剤量(gまたはmℓ)			
	500mℓ	1L	5L	10L
100倍	5	10	50	100
500倍	1	2	10	20
1000倍	0.5	1	5	10
2000倍	0.25	0.5	2.5	5

散布する水量の目安

作物(草丈)	散布水量
1m以下の作物	100~200mℓ/m ²
1m以上の作物	200~300mℓ/m ²

3 ラベルの見方

使用に際しては、ラベルをよく読んで正しく!

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り散布液量	使用時期	総使用回数
トマト	アブラムシ類	2000倍	200~300ℓ	7日	3回
	ハダニ類	1000倍			

使用時期:
収穫の何日前まで使用できるか書かれている。
総使用回数:
同じ成分の農薬を収穫までに何回利用できるか書かれている。

家庭園芸農薬のラベル記載
1m²当り散布液量
200~300mℓ

薬害や安全に使用するための注意

- 効果薬害等の注意**
 - ホルドー液、石灰硫黄剤などのアルカリ性薬剤とは混用しない。
 - 水産動植物に対して影響があるので注意する。
- 安全使用上の注意**
 - 蜜、ミツバチに対して影響があるので注意する。
 - 散布の際は、農薬用マスク、手袋などを着用する。

罰則『無登録農薬』を農地で利用したり、使用基準(作物・希釈倍率と散布量、使用時期など)を遵守しなかった場合には、罰則(3年以下の懲役、100万円以下の罰金)が科せられます。【改正農薬取締法】平成15年3月10日施行

農薬を購入するときは、使用できる内容を十分に確認!

用途
商品名
有効成分

農林水産省登録
第54321号

殺虫剤
○○○○乳剤
△△△△乳剤

【成分】 △△△△.....50.0%
有機溶剤-界面活性剤等.....50.0%

【性状】 淡褐色乳化油状液体

◇◇株式会社

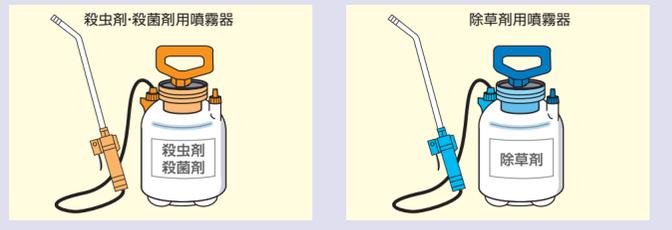
最終有効年月(西暦下2けた) 09.10

使用期限を確認し、期限が切れたものは使用しない

登録番号の記載がないものは使用しない。

5 散布器具は用途別に準備

殺虫剤・殺菌剤は植物を保護し、除草剤は植物を枯らすための農薬です。そのため散布器具は別々のものを用意しましょう。



7 単位

接頭語	k(キロ):千(kg, km) h(ヘクト):百(ha, hPa) m(ミリ):千分の一(mg, mm) μ(マイクロ):百万分の一(μg, μm)	重さや濃度などの割合	% (パーセント):百分の一 ppm(ピーピーエム):百万分の一 ppb(ピーピービー):十億分の一
面積	1a(アール)=100 m ² (平方メートル) 1ha(ヘクタール)=100a 1町≒1ha 1反≒10a 1坪 = 3.3m ²	摂取量	○○mg/kg:体重1kgあたりの摂取量 ○○mg/kg/日:一日体重1kgあたりの摂取量
		散布量の換算	○○kg/10a ⇒ ○○g/m ² ○○L/10a ⇒ ○○mℓ/m ²

6 散布後の注意

残液に注意

- 散布液は余らない量を調査するようにしてください。
- 万一、余った場合は、河川・下水などに捨てないで、使い切るようにしてください。



農薬容器の洗浄と処理

- ボトル容器:
空になった容器に1/4程度の水を入れ、栓をしてよく振り他の容器にあげます。この操作を3回は繰り返してください。洗浄水は畑や庭の隅など農作物の植付けされていない土に処理してください。
- 袋入り包装の容器:
空になった袋、容器を軽くたたいて、中身を出し切ってください。
- エアゾールの容器:
中身を使い切った後、戸外のガスのごもらない場所で、完全にガスを出し切ってください。

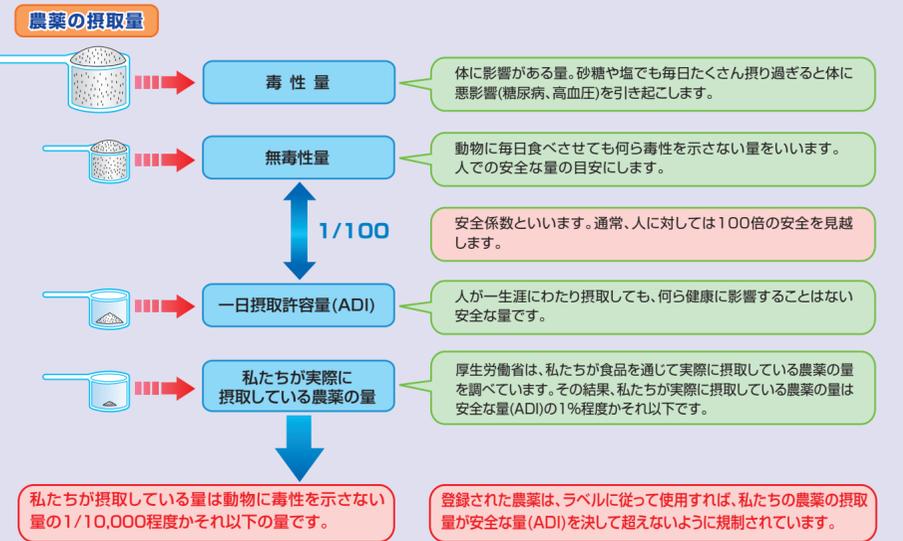


散布器具の洗浄

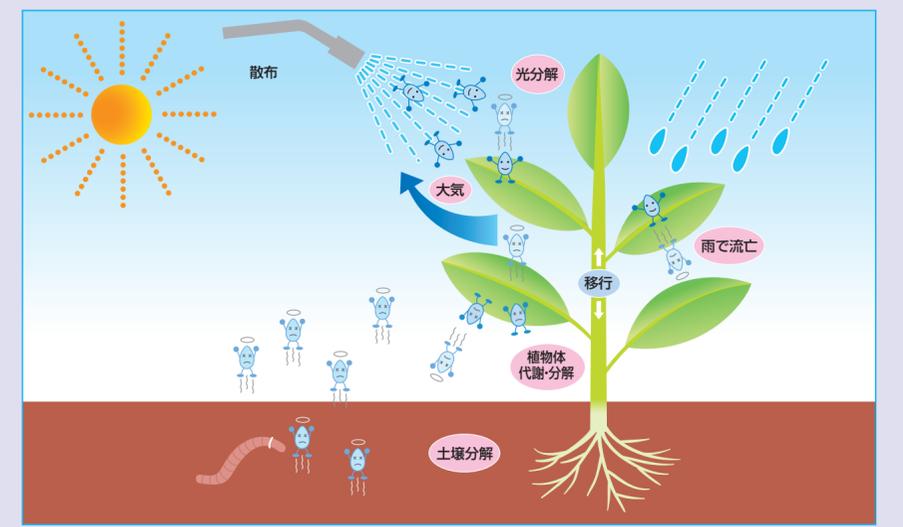
噴霧器などの散布器具は使用後、水でよく洗ってください。また、洗浄水は畑や庭の隅など農作物の植付けされていない土に処理してください。

8 農薬の安全性

私たちの健康はどのように守られているのか?



農薬は自然の力でどんどん分解されます



農薬は、自然の力【光分解、水、空気(酸化)、土壌微生物など】で分解されます。いまでは環境にすーと残ったり、体に蓄積するようなものは農薬として販売が許可されません。そのような残留性の高いDDTなどの有機塩素系の農薬は1971年に禁止されています。